

CS-NET の準備状況及び今後の見通し等について

研究支援委員会 委員 中里 哲也(東京福祉大学)

千葉 伸彦(東北福祉大学)



研究支援委員会(保正友子委員長)では、これから研究を始めようとする研究者のサポート体制を構築すべく、毎年の秋季大会時に科研費獲得のためのワークショップ、初期キャリア形成などをテーマとしたスタートアップ・シンポジウムの企画および運営をして参りました。

これまでの大会時のスタートアップ・シンポジウムでは、参加された方々より様々なご意見を頂戴しました。また、若手研究者の方を対象とした量的調査を実施し、研究者としての困り事やニーズに関する情報を把握し、特に下記の内容についてはこれから研究を始める皆さんにとって大きな課題であることが明らかとなりました。

1. 生活する地域、所属する地域ブロックにおいて研究者同士のつながりがなく、孤独を感じる場面が多い。また、大学院や施設に従事しながら研究を進めているが、現在の研究の進め方が望ましいものなのか不安である。
2. 研究を続けていったとしても、所属先の給与や家庭のことなど将来の見通しが非常に不安である。
3. 所属先における研究への理解度が低く、また業務と研究の両立など研究に対するサポート体制が不十分である。
4. 大学の教員として従事しているが、学生への教育と研究の両立をどのように進めていくべきか迷っている。またこれまで取り組んできた研究が進められるのか、研究の時間確保ができるのか不安である。

上記の4点をふまえ、本委員会ではすでに他学会では研究歴の短い研究者のネットワークが活発に活動を展開している情報を得たことから、本学会においても若手の柔軟な発想とエネルギーを発揮して学会を盛り上げるべく若手研究者ネットワークを立ち上げることを決定しました。その先駆けとして、学会ホームページに若手研究者のリレーエッセイの掲載を開始致しました。令和3年10月現在ですでに8名の方にご投稿いただき、現在の研究活動や本学会への要望等について掲載しております。ぜひ皆様ご覧ください。

<https://www.jssw.jp/activity/researcher-support/relay-essay/>

まず、ネットワークの立ち上げにあたり、各地域ブロックから数名の有志会員を推薦していただき、ネットワークの必要性や今後のあり方について数回にわたって議論を行いました。ネットワークの名称を「CS-NET (CREATIVE SUPPORT NETWORK)」として、現在ネットワークの立ち上げ準備を進めている最中です。

CS-NETは下記の頭文字を取り名称と致しました。

- ・CREATIVE:若手独自に自由な「考え」「発想」「思いつき」創造性豊かな価値を大切に合わせる
- ・SUPPORT:お互いが支え合うことで新しいものが生まれ、研究／実践を続けていける
- ・NETWORK:偶然の繋がりを必然な繋がりへと発展し、参加者一人一人の「ワクワク」を連鎖させる

秋季大会のスタートアップ・シンポジウム時にご案内させていただいた通り、今年度中にCS-NETを本格的にスタートし、皆様にネットワークメンバーとなる入会手続きについてご案内させていただく予定となっております。関心のある方は、ぜひともご参加いただきますようお願い申し上げます。